

市長と郡上市の未来を語ろう！

～平成30年度 市長と語ろう！ふれあい懇談会～



市では、市民のみなさんから、市政に対するご意見・ご提言を市長が直接お伺いし、市政運営に生かすための広聴事業として「市長と語ろう！ふれあい懇談会」を開催しています。今年度は、市政報告のほか「防災」や「地域ごとのテーマ」に沿って懇談し、ご意見を伺いました。今回は、和良、白鳥、大和会場の意見交換の一部を要約して紹介します。

また、各懇談会の詳細は、市のホームページ（各地域のページ）に掲載していますのでご覧ください。

和良会場（11月22日）

●和良地域の今後について

◆和良地域の人口は、1700人前後であり、65歳以上の人口は約700人、高齢化率が約46%である。そこで、和良地域の公共交通機関として運行されている自主運行バスのデマンド型への移行を希望する。

市長：市では、公共交通網形成計画の中で、デマンド型交通での運行について、必要なコストや事業実施の実現性について検討を行っている。また、来年4月からは、西和良小学校の閉校により、スクールバスの運行ルートが和良小学校方面へ変更されるため、活用できないか併せて検討したい。

◆中学校の生徒数が減少しているため、部活動は市単位で行えないか。例えば、八幡地域に、和良や明宝など南部地域の生徒が集まることで、部活動の種目なども増やすことができる。

教育長：学校間の合同部活動が実施できる制度は現在もある。

また、かつてはクラブとして活動している生徒は、中体連の大会に参加できなかったが、本年度から、美濃地区においては中学3年生に限り参加可能としている。ただし、クラブを優先す

ると、普段活動している部活動の人数を減らしてしまうので、調整が必要である。

◆和良地域にある市有地や空き地を、家を建て10年以上住むなどの条件を付けて移住者に無償で提供してはどうか。

市長：現在、全国の自治体で移住政策に取り組んでおり、中には人を呼び込むために宅地の提供を行っている自治体もある。郡上市としても、遊休土地を活用できるのであれば一つの考え方として検討したい。

●防災について
◆一時避難所は公共施設のみとなっているが、土京地区では集会所自体が急傾斜地にあり、現状は一時避難所として使用していない。そこで、安全な民家等を一時避難所に指定することはできないか。

市長：ハザードマップにおいて、土京地区は両岸ともイエロゾーンもしくはレッドゾーンとなっている。一時避難所に集めた際に土石流が発生する可能性もあるため、こういった場所の避難所は望ましくない。避難所が公共施設である必要はないが、個人宅の場合など収容可能な人数や、避難所としての安全性、避難所までの道のりが安全かなどを検討し、所有者の理

解が得られるのであれば事業所やお寺などに指定を変更できると考える。



白鳥会場（11月27日）

●防災について

◆避難所について3点述べる。
①避難者のケアに保健師が対応してくれてよかった。

②避難していた中・高生から手伝いの申し出があり、子どもやお年寄りの話し相手をしてもらったところ、場が和んで大変よかった。

③避難所の運営は、自主防災会により対応が可能なので、市職員の出遣は不要である。

市長：保健師、中・高生の手助け等お話をいただいたが、今後避難者への配慮が行き届くよ

うにしていきたい。また、長期にわたる避難所の管理運営については市職員のみでは限りがあるため、自主防災会等、地元の方々で行っていただけるよう相談したい。

◆長滝地区では、避難するため一時避難所である集会所へ向かったが、土石流の危険があり、次の避難先である「デイサービスセンター」へ向かった。しかし、避難所として開設されておらず、さらに次の避難所となる「ふれあい創造館」へ避難した。この間、かなりの距離があり避難できる経路も危険な状況であった。スムーズに避難できる体制や避難所の開設を願う。

市長：長滝地区については、集会所自体が危険との情報があり、ふれあい創造館へ避難誘導する形を取った。しかし、国道156号が土砂災害で通行止めとなっていたため、川沿いのサイクリングロードを通行し避難されたと報告を受けた。全国各地で、避難中に人命を失う危険性について問われており、今後は十分注意する必要があると考える。

◆災害時に消防団が、危険と思われる場所をパトロールされるが、活動範囲や基準がなく、自身の経験等に頼る部分が多々

ある。団員に危険が及ばないよう、明確な基準が必要と感ずる。

市長：団員自身が、危険に晒されてはいけないと考える。安全に活動を行うための管理マニュアルが消防庁や県等から示されているので、消防本部、消防団などでよく検討していく。

◆小・中学校や高校において、避難訓練を行っているが、避難情報（避難準備、避難勧告、避難指示等）の説明は行われていない。子どもたちが大人になつたとき、そういった知識があれば、住民同士の連携もスムーズに行える。また、今回、子どもたちが避難所で手伝ってくれたように、地域との関わりから学ぶことも多いと考える。子どもたちが避難情報などの防災に関する知識を学ぶ機会を設けていただきたい。

教育長：子どもたちが、避難所で小さな子やお年寄りに話しかけられたのは、白鳥地域のジュニアリーダーの育成、公民館の応援団、文化活動の継承などにより、地域内の絆ができていたからだと考える。また、気象情報における避難準備等については、まずは先生に理解していただくため、校長会で資料を配布し説明を行っている。



大和会場（11月29日）

●大和地域の未来・夢を語るうについて

最近、学校の統合についてのアンケートがあり、やがて廃校問題を抱えることになると思えた。今回、「夢」がテーマということで、廃校後の学校活用について提案する。校舎の各教室を、ギャラリーやカフェ、ハンドメイド雑貨、ファッション、ワークショップなどに活用し、郡上市の若者が働ける場所になればよいと考える。

市長：学校の統廃合については、重要なことであるため丁寧に地域のみならずと協議しなければならぬと考える。また、学校は教育だけでなく、地域の運動会や行事を行う精神的な拠

り所としての側面もあり、無くなることは非常に寂しいことである。提案のような「夢」も含めて、新しい機能を持ち活用されるのであれば、地域などからの理解もいただけると考える。

◆移住して半年経つが、郡上は人とのつながりや、季節感のある生活ができるなど、子どもたちの心を豊かに育てられるとても良い環境だと感じている。市長の郡上での楽しみは何ですか。また、それを子どもたちへどのように伝えますか。

市長：豊かな自然や人間関係、踊りなどを楽しんでいる。また子どもたちに、郡上の楽しさを伝えるために「郡上学」を行っている。様々な体験を通じて地域とともに学んでいってもらいたい。

◆大和に特化した地域情報誌「まるつとやまと」を制作している。この冊子は、大和の身近な情報や各機関の情報発信を行うために、大和町内全戸に配布している。現在、4号発行しているが、読んでいただいた感想をお聞きしたい。

市長：身近な人が掲載されており、親しみやすく、大変素晴らしい内容だと感じた。大和に住む人々の顔が見えるような情報誌になると良いと思う。

◆明宝や八幡町、大和町の一部を回る移動スーパーを週6日間営業している。郡上には、移動販売を必要とされる人は多いが、この仕事を開業する人は少ないため、個人や企業へ市からの業務委託によって実施できないか。

市長：近所の商店が廃業するなど、高齢者が気軽に買い物ができなくなってきた。市では公共交通を利用した買い物の方がなどを検討しているが、住民同士の支えあいや、移動販売も必要と考える。また、市民に必須のサービスは、商工会などから意見を聞き、一定の設備整備に対して助成を行っている。委託業務の方式よりも何らか別の形でサポートをしていきたいと考える。

